

第3学年 音楽科学習指導案

1 題材名 日本の音楽に親しもう

〈教材名〉 鑑賞：「佐原囃子」「誉田囃子」

表現：音楽づくり「リズムを組み合わせせておはやしづくり」

2 題材について

〈学習指導要領との関わり〉

第3学年

A 表現 (3) イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、
思いや意図をもって音楽をつくること。

B 鑑賞 ア 曲想とその変化を感じ取って聴くこと。
イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に
気をつけて聴くこと。

[共通事項] ア (ア) 音色、リズム、旋律、音の重なり、拍の流れ
イ (イ) 反復、変化

(1) 題材観

夏から秋にかけてお祭りの季節である。本校の学区内でも夏休みに盆踊り大会、10月に学校の隣にある八幡神社で祭礼が行われるので、子ども達もどこかでお囃子を耳にしていると思われる。

囃子にはもともと歌や舞、踊りなどを高揚させるために言葉や鳴り物でにぎやかに囃し立てるという意味がある。のちに、打楽器を中心とした合奏に発展し、音楽の重要な位置を占めるようになった。能や歌舞伎での囃子は踊りや芝居などを引き立てるものだが、祭囃子においては囃子そのものが主体となる。

佐原囃子は千葉県香取市の佐原の大祭で奏される祭囃子である。情緒的な旋律が特徴の伝統的な曲と合わせて民謡や流行歌も取り入れられ、曲数は40曲以上にのぼる。踊りのお囃子は躍動感あふれる早いテンポで奏される。誉田囃子は地域の方々が佐原囃子を踏襲したものである。身近な方々が既存の音楽をアレンジして楽しんでいる姿は、子ども達の生涯を通して音楽を愛好する心情を育むことにつながる。

また、お祭りの楽しみは華やかな山車やお神輿、踊りなど多岐にわたり、家族や友達と出かけ一緒に楽しむ傾向がある。そうした日常生活の中で耳にした音楽が題材であれば興味・関心が促進され、地のリズムで奏される反復などの音楽の仕組みや音色など音楽を特徴づけている要素が楽しみながら習得でき、題材としてふさわしいと考えた。

(2) 児童の実態 (男子12名 女子15名 合計27名)

本学級の児童は歌やリコーダー、リズム遊びが大好きで音楽活動全般にとっても積極的である。休み時間に「おはやしをやろう！」と自発的に太鼓をたたいて音を合わせる様子も見られた。しかし、グループ活動の際には意見をお互い聞かなくて話し合いが進みにくいグループもあった。そこで、お祭りでお囄子に耳にしたことのある音楽なら友達と音楽を作る楽しさを味わえるのではないかと考えた。

児童にアンケートを実施した。内容は以下の通りである。

- | |
|--------------------------------|
| ① お囃子を演奏した経験の有無 |
| ② 楽器の名前を知っているか |
| ③ お囃子を演奏した感想 |
| ④ お囃子の参加経験がない人はこれから参加してみたいと思うか |

アンケートの結果、実際にお祭りでお囃子を演奏した経験のある児童は少数ということがわかった。経験した楽器は太鼓であり、「笛や鉦は難しいから」という声が聞かれた。お囃子で使われる楽器の名前を知っている児童はさらに少なく、参加したことはあっても太鼓以外の楽器のことはよく知らない、と言う児童が多かった。演奏した感想として、まわりの大人達や友達と関わりあい、教え合いながら演奏できたことが楽しかったという声が多数だった。

お囃子が未経験の児童についてお囃子をやってみたいかとの問いに、「はい」と答える児童が多数だった。他方、「いいえ」と答える児童が7人いた。

アンケートをしている時に、「おはやして何？」という声も多数聞かれた。お祭りでよくやっている太鼓や笛の音楽だということ納得するようだった。また、そういう音楽は幼稚園でやったという声もあり、実際に祭囃子に参加していなくても生活の中に組み込まれているようである。技能面に関して、手拍子回しなど拍に乗る音楽遊びをやると止まってしまうことがある。本題材ではグループ活動の時にお互いに遠慮し合う人は相互に関わりながら協力して音楽をつくること、全体的には地のリズムをよく聴いて拍に乗り、途切れずにお囃子を演奏することが課題である。

(3) 指導観

本題材では鑑賞と音楽づくりを共通事項で結びつけて展開する。鑑賞の際には地のリズムが繰り返されていること、楽器の音色の違いに着目して聴かせる。

第1次では佐原囃子と誉田囃子を鑑賞する。まず佐原囃子ではどんな音が聴こえるか、オノマトペで発言を促す。次に、誉田囃子保存会の皆様に誉田囃子を演奏していただく。楽器の形状や演奏の仕方など視覚で確かめる。お囃子の楽器については大太鼓・締太鼓・鉦・篠笛の構成が一般的だが、佐原囃子や誉田囃子ではこれらに加えて鼓が入ることも伝える。ワークシートに聴こえてきた音をオノマトペで書き込む。ここで同じ言葉が繰り返されていれば、お囃子が反復という仕組みでできていることが認識できる。繰り返されているのは地のリズムであり、他の楽器はその上にいろいろなリズムで重なっていることに気づくよう助言する。身近な方々の演奏を聴くことで郷土の音楽に興味・関心をもたせたい。

第2次第1時では常時活動で拍の流れやリズム問答を体験した後、一人一人唱歌が書いてあるカードを使ってリズムを組み合わせ、お囃子をつくる。その際プリントを使い、地のリズムの上に任意の唱歌を貼り、無理なく音楽づくりができるよう音楽の構造を視覚化する。できた人から教師の地のリズムの上に自分のリズムを重ねて発表する。また、友達のお囃子を聴いて適切な言語表現ができるよう知覚と感受を表した言葉を掲示し、音楽活動と言語活動の往還を図る。

第2次第3時では全員のお囃子をつなげて演奏する。途切れずに続けるには拍を感じ、お互いの音を良く聴きあうことに気づかせ、拍に乗る感覚を体験させる。

お囃子をやってみたいかと問われていいえと答える児童も少なくない。この教材を通して友達と音楽を作る楽しさを感じ取らせたい。

3 題材の目標

日本の音楽の雰囲気や特徴を感じ取りながら、お囃子の音楽を聴いたり旋律をつくったりして我が国や郷土に伝わる音楽に親しむ。

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
① お囃子で使われる楽器の音色に興味・関心を持ち、郷土に伝わる音楽が持つ曲想を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。	① お囃子の特徴づけている要素を聴きとり、それらの働きが生み出す良さや面白さなどを感じ取り、音楽の仕組みを生かし、リズムの組み合わせをいろいろと試して、思いや意図を持って音楽を作る工夫をしている。	① 拍の流れを感じながら、和太鼓の音色を生かし正しいリズムで演奏している。	① お囃子で使われている楽器の音色やリズム、速度、旋律の特徴などを聴きとり、それらの働きが生み出す曲想を感じ取り、その違いを発表するなどして、郷土の音楽の良さを味わって聴いている。

5 研究の視点について

【視点1】9年間を見通した学び方の共有

本題材では鑑賞と音楽づくりを関連させて展開する。これらの2つを関連させる題材はお囃子に限らず小学校低学年から行われる。音楽教育全般に関わることとして、特に幼少期での音楽遊びの経験の有無や多さが、その後確かな音楽の力を伸ばす一つの鍵となると考える。リズムや強弱、問いと答えなど音楽の要素や仕組みを遊びの中で経験させ、鑑賞教材の中からいつもの遊びで経験している音楽の法則を聴き取る。高度に洗練された楽曲がいつもの音楽遊びの延長上にある。こうした体験的な学びの繰り返しが、中学校での音楽の仕組みを理解した活動につながると考える。

学校教育における音楽科の指導では手拍子回しなど音楽の仕組みや要素を体感できる活動を常時活動として行い、友達と関わりながら音楽的な経験を積み重ねることが大切である。活動の主体は子ども達にあるが、教師は活動の明確なねらいを持ち、案内人のような役割を担うように努めると自然に音楽の力が身につくと考える。こうした経験の豊かさが、合唱や合奏の活動と相互に作用して総合的な音楽の力をつけるための土台となる。

郷土芸能や民謡の中で子ども達に身近なものは祭囃子やわらべうたである。他に仕事歌、子守唄などがあり、その音楽のありようは人々の暮らしとともにある。音楽文化の多様性を理解するには人々の生活や地域の風土な

どと音楽の特徴を関連づけて考える必要がある。幼少期からのわらべうた遊びや身近にある祭囃子などに親しむことが音楽のあり方の根源に触れ、中学校で各地の音楽の背景を調べる活動の考察を深める根拠になる。そして身近にある音楽を学ぶ意義は、世界各地の人々の間にも、身近なもので楽器を作り、独自の方法で生活の中に音楽を取り入れ楽しむ、音楽文化の多様性の受容にあると考える。

6 題材の指導計画（3時間扱い）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
第1次	第1時	ねらい 様々な楽器の音色、リズム、旋律など祭囃子の特徴づけている音楽の要素や仕組みを聴き取る。	
		<p>○身近にある祭囃子を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐原囃子を鑑賞する。聴きながら篠笛の旋律を歌う。次に篠笛以外の音に耳を集中させる。どんな音が聴こえたかオノマトペで発言を促す。 ・菅田囃子を、保存会の皆様の演奏で鑑賞する。先程のお祭りでのお囃子が、小編成でも工夫次第で楽しめることを学ぶ。 <p>○祭囃子で使われる楽器の種類を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大太鼓、締太鼓、篠笛、鉦は実物を見せて構え方や奏法を解説し音色を聴かせる。 <p>○祭囃子の音色の特徴、反復などの音楽の仕組みを聴き取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに聴こえた音をオノマトペで書き込む。何回も同じ言葉が繰り返されることに気づかせ、それが反復という音楽の仕組みであることを知覚する。 ・リズムなど他に気づいた音楽の特徴を書き込む。 <p>○学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回は反復や変化の仕組みを使ってお囃子をつくることを伝える。 	<p>◆お囃子で使われる楽器の音色に興味・関心を持ち、郷土に伝わる音楽が持つ曲想を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p style="text-align: center;">（関心・意欲・態度）</p> <p>お囃子で使われている楽器の音色やリズム、速度、旋律の特徴などを聴きとり、それらの働きが生み出す曲想を感じ取り、その違いを発表するなどして、郷土の音楽の良さを味わって聴いている。</p> <p style="text-align: center;">（鑑賞の能力）</p>

第 2 次	第 2 時	ねらい 拍の流れを感じ取り反復や変化の音楽の仕組みを使い、おはやしのリズムをつくる。	
	本 時	<p>○前時の復習をして音楽のしくみ「反復」を思い出させる。</p> <p>・常時活動で前回の復習をする。</p> <p>○お囃子のリズムパターンを打つ。</p> <p>・教師は地のリズムを打ち、子ども達は「反復」「変化」のリズムパターンを打つ。</p> <p>○個人でお囃子をつくる。</p> <p>・「反復」「変化」のルールにならない、唱歌のカードを組み合わせしてお囃子のリズムをつくる。</p> <p>○できた人から教師の地のリズムに合わせ、作ったお囃子を発表する。</p> <p>○友達のお囃子を聴いた感想を発表し合う。</p> <p>○学習のまとめをする。</p>	<p>○拍に乗ることを意識させる。</p> <p>○まねっこは前回鑑賞したお囃子の反復という音楽の仕組みと同じであることを伝える。</p> <p>お囃子を特徴づけている要素を聴きとり、それらの働きが生み出す良さや面白さなどを感じ取り、音楽の仕組みを生かし、リズムの組み合わせをいろいろと試して、思いや意図を持って音楽を作る工夫をしている。</p> <p>(音楽表現の創意工夫)</p>
第 2 次	第 3 時	<p>○前回の復習をする。</p> <p>○お囃子を発表する。全員のお囃子をリレーしてつなげ、クラスのお囃子として演奏する。教師は地のリズムを演奏する。</p> <p>・実際に太鼓を使って演奏する。</p> <p>・途切れないように演奏するにはどうしたら良いか話し合う。</p> <p>・拍の流れを意識してお互いの音をよく聴きながら最後までつながるよう友達と協力して演奏する。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	<p>拍の流れを感じながら、和太鼓の音色を生かし正しいリズムで演奏している。</p> <p>(音楽表現の技能)</p>

7 本時の学習（2/3）

（1）目標

音楽の仕組み「反復」「変化」を生かしてお囃子をつくる。

（2）展開

学習内容と学習活動	○教師の関わり ◆評価規準
<p>1 常時活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゴーアンドストップ」「手拍子回し」「まねっこリズム」をする。 <p>2 前時の復習をする。</p> <p>3 本時の学習の見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を確認する。 	<p>○拍に乗ることを意識させる</p> <p>○まねっこは前回鑑賞したお囃子の反復という音楽の仕組みと同じであることを伝える。</p> <p>○大太鼓と締太鼓を使ってお囃子をつくることを伝える。</p>
<p>リズムをくみあわせておはやしをつくろう</p>	
<p>4 お囃子のリズムパターンを打つ。全員、紙製のバチを使う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達は「反復」「変化」のリズムパターンを打つ。慣れてきたら教師が地のリズムを入れる。 ・「反復」「変化」のルールにのっとり、個々の唱歌カードを入れ替えながら任意のお囃子のリズムをつくり、練習する。 ・1人4小節とする。 <p>5 お囃子ができた人から発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の地のリズムの上に重ねる。 <p>6 本時の学習の振り返りをする。</p>	<p>○教師のリズムは同じリズムとし、これが前回鑑賞したお囃子の中の地のリズムであることを伝える。</p> <p>○唱歌のカードを提示し、お囃子では五線譜ではなく唱歌を使うことを伝える。</p> <p>○リズムパターンの掲示物を示し、「反復」「変化」の音楽の仕組みを視覚化する。</p> <p>○唱歌を口に出して練習するよう助言する。</p> <p>○知覚と感受をあらわす言葉をそれぞれ掲示しておき、聴いている人はこの中のどれかの気持ちになったら拍手をすることを伝える。</p> <p>言語活動との往還を図る。</p> <p>○次回の授業で全員のおはやしをつなげて演奏することを伝える。</p> <p>◆ お囃子を特徴づけている要素を聴きとり、それらの働きが生み出す良さや面白さなどを感じ取り、音楽の仕組みを生かし、リズムの組み合わせをいろいろと試して、思いや意図を持って音楽を作る工夫をしている。</p> <p style="text-align: right;">（音楽表現の創意工夫）</p> <p style="text-align: right;">〈観察・発表・ワークシート〉</p>

